

建学の精神と学校生活

謙虚にして真理探究 (帰依仏)
三宝帰依 誠実にして精進努力 (帰依法)
親切にして相互協同 (帰依僧)



礼
ら
い
は
い
拝

京都文教中学高等学校・宗教礼拝

- 令和6年5月27日
1号

京都文教中学校・高等学校は、浄土宗の教えを建学の精神として設立されました。本日の礼拝は、明るく正しく仲良い学校生活を送ってほしいという学校の願いについて、建学の精神の理解を深め、今の自分を振り返る時間にしたいと思います。

インドから伝わったお釈迦さまの教えは、中国で「宇宙」という言葉を生みしました。「宇」とはすべての命が生まれ育ち、互いに関係を持つ場所、つまり私たちを取りまく空間を示します。「宙」とは回転の軸を表すことから季節がめぐること、つまり時間の流れを示します。お釈迦さまの教えは、私の命は、この「宇」と

「宙」が交わった中心にあり、常に変化していく時間と空間の中で、「他の命とどう関わって生きるのかを説いた教え」であります。

仏教を開かれたお釈迦さまはお弟子たちに、調った生き方をするためには三つのことを信じ、帰依する事が大切であると説かれました。それを「三宝帰依（さんぼうきえ）」と言い、これが本校の建学の精神となっております。お釈迦さまは「仏法僧の三宝に帰依せよ。仏法僧の三つを宝物のように大切に生きていくことで正しい生き方ができる」とお教えくださいました。仏教聖歌の三帰依文（パーリ文）がその内容を示したものになります。

ブツダン サラナン ガッチャーミ

ダンマン サラナン ガッチャーミ

サンガン サラナン ガッチャーミ

（自ら仏に帰依したてまつる）

（自ら法に帰依したてまつる）

（自ら僧に帰依したてまつる）

私たちの命は、はかり知ることのできない無量の尊い命を、過去からも未来からも頂いて、今ここに存在しています。それは草木や動物の命だけではなく、私たちの周りにある空気など物の命（存在）も含めて、無限の数え切れない命が関係を持って支え合うことで、初めて私は生きていけるということです。人間という極めて限られた世界の中でさえ、知っている人であろうと知らない人であろうと

と、互いに関わりあってしか生きていけないのです。「帰依（きえ）」は「帰命（きみょう）」とも言います。すべての「命」はもともと「何かを頼り（依りどころ）」として生きている」という意味になります。ですから「仏に帰依する」とは、数え切れない無量の命に無量寿仏（阿彌陀仏）の中で生かされていることに気づくことなのです。その気づきは感謝の心を生み、お互いに感謝する心は世の中を明るくしていくのです。

次に「法」とは、無量寿仏（阿彌陀仏）の中で生かされていることに気づいていくために説かれた、お釈迦さまの正しい教えのことです。ですから「法に帰依する」とは、ありとあらゆる命が互いに支え合って助け合って生きるために必要な正しい関係を理解して、仏さまの教えに依った正しい生き方をしていくことなのです。

そして「僧」とは私たち自身を意味します。ですから「僧に帰依する」とは、互いに支え合う命の中で生きて行くからには、すべての命に対して敬いの心を持ち、思いやりの心で互いに助け合って支え合って励ましあって、仲よく生活していくことなのです。

本校の校訓である三宝帰依、謙虚にして真理探究（帰依仏）、誠実にして精進努力（帰依法）、親切にして相互協同（帰依僧）を日々の生活の中心として、これまでの自分を振り返り、よりよい明日にしていきましょう。